

◎ 聴読解問題スクリプト

Track 8

3 番 先生が授業で、合板の作り方について話しています。この先生の話によると、技術が進歩したのは図のどの工程ですか。

合板（ごうはん）というのは、厚さが0.5ミリから5ミリくらいの薄い板を張り合わせて作った板のことです。作り方は、まず木を適当な長さに切り、トイレットペーパーを引き出すように、外側から薄く削っていき、薄い板にします。これを適当な大きさに切って乾燥させます。そして乾燥した板を、木目が互いに直角になるように重ねて、接着剤を付けて押し固め、製品として出荷します。

材料となる木は、以前は、ほとんどが輸入した木材でした。しかし、近年は、国産の木で、直径十数センチ程度の細い木も使用されるようになってきました。この背景には、森林資源の保護や産地国の輸出関税の引き上げで輸入に障害が生じたことのほかに、機械が改良され、木を削る技術が進歩したことが挙げられます。以前は、直径7センチから5センチ程度の芯が残ってしまいましたが、今では芯が直径3センチから1センチ程度になるまで削れるようになりました。それで、細い木でも板が多く作れるようになったのです。

Track 10

5 番 先生がマーケティングの授業で話しています。この先生が挙げる例での変化は、資料のどの部分にあたりますか。

資料の図は、一番下の「不認知」、すなわち、ある商品について名前も聞いたことのない人が、一番上の「常用」、すなわち、その商品を何度も購入するようになるまでに、どのような段階を経ていくかを示しています。

例えば、ある町のおみやげとして有名なお菓子が 있습니다。もともとこの町でしか買えなかったのですが、インターネット販売を始め、どこでも買えるようにしました。すると、どういのお菓子が写真で見たことはあるけれど食べたことはないという人が試しに試してみることができるようになり、売り上げが大きく伸びました。つまり、このマーケティング活動は、図のどの部分の変化を促したことになるのでしょうか。

Track 12

7 番 先生がコウモリという動物について話しています。この先生が最後にする質問の答えはどれですか。

コウモリの翼の形は、この図のように大きく四つのタイプに分けることができ、飛び方の特徴も異なります。図の縦軸は、翼の長さを幅で割った割合で、翼の形を示します。この値が大きいほど横に細長い形の翼になります。横軸は翼にかかる体の重さを示します。この値が大きいほど、体の大きさのわりには小さい翼で効率よく飛んでいることになります。

例えば、1のタイプのコウモリは、翼が細長いので、翼が木に引っかかったりしないような、開けた空間を高速で飛ぶのに適しています。3のタイプのコウモリは、翼が幅広く大きいのが特徴で、あちこちにあるえさ場の間を飛び回ります。一方、4のタイプのコウモリは、幅広くて短い翼を持っているので、小回りがききます。1と4の中間の2のタイプのコウモリは、林の中を飛び、中には水上で低空飛行ができるものもいます。

さて、コウモリの中には季節によって長距離を移動するものがありますが、それには、広い空間を効率よく飛ぶことが大切です。このようなタイプのコウモリは、この図でいうと、どこに位置しますか。

Track 13

8番 男子学生と女子学生が研究発表会の準備について話しています。この二人が今週これからすることはどれですか。

男子学生：来週の研究発表会までにどんな準備が要るか、書き出してみたんだ。

女子学生：ありがとう。じゃ、この中で今週中にしておくことをまず決めようよ。

男子学生：いすや机を並べたり、マイクをチェックしたりするのは当日でいいね。

女子学生：うん。懇親会場は予約した？

男子学生：大丈夫。

女子学生：資料の印刷はできる？

男子学生：まだ原稿を出していない人もいるし、直前に訂正が入ったりするから……。

女子学生：そうか、じゃ、前日の方がいいね。

男子学生：じゃ、今週することはこれだけだね。